



たたら

第 26 号
(2026年1月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 石川直樹
<http://oushimaned.main.jp>



薄氷が張った堀を宇賀橋(中央)へ向かって進む堀川遊覧船「豆炭こたつ」(写真・文森勝男さん)

冬の風物詩・薄氷の堀を進む堀川遊覧船「豆炭こたつ船」と松江城の雪景色を撮影しました。堀川遊覧船は、水上から城下町の風情や城山公園の森、水辺の鳥など四季を通して楽しめます。

日本各地の水上観光船をランキング形式で紹介している「プロが選ぶ水上観光船30」(主催・旅行新聞新社)の一昨年12月発表では、2年連続の西日本1位、東日本も含めた全国では6位と観光客に人気で、NHKの朝ドラ「ばけげん」放映の影響で観光客が増大して大変混雑しています。

国宝・松江城は、延焼防止と大木の根が石垣を壊しているとして、約50本を伐採したことで大変見晴らしがよくなりました。

松江城天守は、昭和10年(1935)当時制定されていた国宝保存法により、国宝に指定された。ところが昭和25年(1950)の文化財保護法(昭和24年1949年の金閣寺火災で法整備)施行に伴い、文化財の見直しをおこなった折、松江城は完成年代を特定できる資料がなく、国宝に次ぐ格付けの「重要文化財」に変更されたが、完成時の祈禱札2枚が発見され年代が明らかとなり、平成27年(2015)5月15日文化財審議会が文科相に国宝指定の答申で国宝となった。

指定されてから10年を迎え、1950年の修理から70年が経過し、老朽化のため瓦や壁面を補強する「令和の大修理」を2027年度から3年をかけて大修理となる予定と松江市が公表した。

あけましておめでとうございませす。
本年も宜しくお願ひ申し上げます。
島根同窓会役員一同



令和8年 新年のご挨拶



放送大学島根同窓会 会長の
 石川直樹です。
 会員の皆様、明けましておめで
 とうございます。
 皆様におかれましては、健やか
 に新春を迎えられたこととお
 慶び申し上げます。

1. 感謝と抱負

昨年5月の会長就任以来、会員の皆様のご理解
 とご協力により、同窓会活動を無事に進めること
 ができました。この場をお借りして厚く御礼申し
 上げます。
 就任時の挨拶でも述べました通り、予測できない
 不確実性が増す時代において、放送大学で培った
 「多様なものの見方や知見」の重要性はますます
 高まっています。国際的な紛争、国内の少子高齢
 化や災害、そして社会的な危機や変化が続く中、
 私たち同窓会の果たすべき役割は、決して小さく
 はないと考えております。

2. 昨年の活動と今年の重点課題

昨年は、役員の方々と協議を重ね、就任時に掲
 げた目標の実現に向けた第一歩を踏み出しました。

交流の場の提供と新規会員の確保

会員が集える場を設けることを重視し、総会に
 合わせて開催した『市民公開講座』は朝ドラの「ば
 けばけ」の効果もあり会場は一杯でした。これは
 会員相互の交流を深めるとともに、新規入会者の
 獲得につながるための重要な土台作りであると
 認識しております。今後もタイムリーな話題と場
 を提供していきたいと思えます。

センター事業への協力と連携

放送大学の特色を維持するため、「習センター
 主催の修士論文発表会への参加、公開講演会への
 参加など、引き続きセンター事業への可能な限り
 の協力を進めてまいりました。

地域貢献の推進

地域貢献を掲げる島根同窓会として、会員それ
 ぞれの職場や地域での知見の活用を推進し、大学
 の認知度向上に繋がるよう地道な活動を継続し
 ました。『さんいん環境キャンペーン森林保
 全活動への参加』や『奉仕活動や農家民泊をされ
 ている会員の紹介』などを実施しました)

本年も、これらの活動を継続・深化させると
 ともに、特に「会員相互の交流促進」と「新規会員
 の獲得」を最重要課題と位置付けたいと考えてい
 ます。

センターに集まる機会が減少する現代におい
 て、同窓会こそが、放送大学で学んだ者がつな
 がり、ともに語り、学びを共有する「知のコミュニ
 ティの核」となるべきと考えます。具体的な活動
 を通じて、会員の皆様が「参加してよかった」と
 思えるような、魅力的で活気ある同窓会を目指し
 てまいります。

3. 結びに

結びに、私たちを取り巻く環境は激変していま
 すが、だからこそ、**会員の皆様一人ひとりの力
 が同窓会活動を支える源泉**となります。皆様から
 ご意見をいただきながら、ともに手を携え、楽し
 く、そして意義のある活動を推進していきたいと
 願っております。
 本年が、会員の皆様にとって実り多き一年となり
 ますよう心よりお祈り申し上げます。

令和8年 元旦

すばらしい過去になれるか

島根学習センター
 所長 出口 顕



新年明けましておめで
 とうございます。今年もよろしく
 お願いいたします。

毎年思うことだが、また一つ
 年をとり今年が60代最後の
 年である。昨年春、大学の同級生だった女性が遊
 びに来てくれたが、実に48年ぶりの再会だった。
 半世紀近い間にお互いずいぶん変わったが、学生
 時代のままで変わらないなと思える面もあった。
 彼女も私も大学の同期でつくるグループLINE
 に加わっているが、メンバーの中にはあの頃のま
 まのため、仲間内での受け狙いで「いいね」ほし
 さなのか、時代にそぐわないハラスメント的な発
 言を平気でしている者もいて辟易する。

私はいわゆるしらけ世代だが、一つ上の団塊の
 世代からは、覇気がないと揶揄されたものだ。彼
 らの中には学園紛争の頃反体制的な発言とふる
 まいをした人たちも数多くいる。しかし、功成り
 名を遂げたその人たちが勲章を受賞したニュー
 スに接すると、あれだけ天皇制を批判していたの
 にと思わざるを得ない。「あの頃の発言は何だっ
 たのか、若気の至りで済ませるのか、初志貫徹し
 ないのか」という思いにかられる。変わらないま
 まなのも問題だが、豹変するのも問題である。

ビールのコマーシャルに「すばらしい過去にな
 ろう」というのがあるが、それはなかなか難しい
 のを実感する新年の始まりである。

2025年度第1学期

学位記授与式が開催されました



(卒業生の皆さま)

令和7年度(2025)第1学期学位記授与式が、9月28日(日)午前10時40分から島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第1学期は教養学部で8名が卒業され、本授与式には7名の方が出席されました。

最初に島根学習センター出口頭所長より、念願とする学位記が卒業生一人ひとりに手渡されました。

島根同総会からは恒例となっている石川直樹会長が来賓として招かれ、祝辞を述べました。式典には役員、会員も出席し後輩の皆さんの学位記授与を称えました。

所長祝辞は中国後漢時代の漢書を引用

卒業生に対し出口所長より頻繁に生じる地震・豪雨・豪雪など日々の生活を守るためにリスクを未然に回避する、あるいは



(祝辞の述べる出口頭所長)

は迫りくる危機を最小限に抑えるリスク管理が求められます。中国の後漢時代に編纂された歴史書『漢書』に「刑法志」の一説「よく師する者は陳せず、よく陳する者は戦わず、よく戦う者は敗れず、よく敗れる者は滅びず」を引用され、皆さんは放送大学で学んだ知識を生かして、時代に流されない理性的思考を働かせて、どうすればよいかをご自身や社会で生かしてください、とお祝いの言葉がありました。

来賓として石川直樹島根同窓会長の来賓挨拶



(祝辞を述べる石川会長)

学位の取得は大きな節目ですが、これで学びが終わるわけではありません。むしろ、ここからは本当の学びの始まりと言えるでしょう。社会は常に変化し、新しい知識やスキルが求められます。放送大学で得た学び続ける力こそが、これからの人生を豊かにする羅針盤となります。

今日のお祝いに私の好きなドイツの哲学者、ニーチェの言葉「学び、知識を積み、知識を今なお教養と支援を掲げ続けているような人は退屈を感じなくなる。あらゆる事柄が以前にも増して一層興味深くなってくるだろう」と述べています。

このことは学び続けることの大切さを説いていると思います。これからもぜひ学びを続けてください。

私たちの同窓会は活動の一つに、地域社会の貢献に寄与することを挙げています。そのことから放送大学と地域社会とのつながりを持てるように感じています。私たち同窓会は放送大学と学生の皆さまを結ぶ架け橋になりたいと願っています。卒業後の学びを継続したい、関心を持つ仲間と交流したいと思われる方は、ぜひ同窓会活動にご参加ください。お待ちしております」と述べ、皆さまのこれからのご活躍を心から祈念し、挨拶とさせていただきます。

桑原さんの卒業生代表挨拶

放送大学は様々な環境の人でも、誰でもが目的や時間にに応じて、自由に学習することができる素晴らしい教育機関であります。



私は鍼灸師の仕事をしていて、お客様との会話の中で教養や知識の不足を痛感し、心理学について学びたいと入学しました。私が選んだのは、「生活と福祉コース」です。日々生活する中で、直面する問題を解決する上で、とても参考になりました。

また面接授業では、障害の理解と支援、特別支援などもとても勉強になりました。

しかし興味ある科目も日程が重なって残念なことがたくさんありました。また、生理学や臨床心理学関係の科目などは、鍼灸師になるための20年前に学習したことを思い出し、勉強する楽しさもよみがえりました。

私は今でも自宅で仕事をしていて、卒業までに7年が経ちました。その間、膝の手術、2週間の間に母と息子を亡くし、2年間立ち上がることができずにいました。でも放送大学の単位認定試験の期限などが差し迫り、勉強しなければと思うことで気力が湧き始め、少しずつ元気になり、残された私にできることは、命ある限り学び続け、礼を尽くすこと、一人でも多くの人たちや若い人たちに伝え、社会のためにできることをやる気と元気をモットーにして行きたいと思ひますと挨拶をされました。

続いて卒業生の皆さんに、学習センターからひとり一人に花束が贈呈され、卒業生を囲んで関係者と記念撮影が行われ授与式は終了しました。

〈文責：竹下靖彦〉

2025年 第1学期

卒業を祝う会を開催



(石川会長開会挨拶)

2025年9月28日(日)学位記授与式に続き、会場を第2講義室に移し、同窓会主催による第1学期卒業を祝う会は、卒業生5人の方が参加され、出口所長、藤嶋学友会長、大谷客員教員、役員、会員の皆さんが参加をされ祝う会開催でした。

祝う会は石川同窓会長が主催者を代表して、「本日はご卒業誠にありがとうございます。皆さまの学ぶことへの挑戦の結果であるとともに、在学生のみならず、新入生にとりましても一つの目標となると思います。」「同窓会の諸事業ですが、目標に向けて少しずつ、成果を上げてきております。とりわけ、島根学習センターと連携した活動は、センターだけでなく在学生からも頼りにされており、同窓会の存在が学習センターにとって、相互の信頼関係を築くことができた証だと思っております。昨年実施した西田千太郎と小泉セ

ツについて市民公開講座の開催は実にタイムリーな企画でした。

私たち同窓会の活動は、連合会において卒業生の少ない学習センターにおいての活動が評価されていますが、無理をせず、背伸びをせずに、着実に推進して行きたいと考えています。ホームページも作っております、今朝見たら累計で57,110のアクセス数ということで、すごい閲覧回数があります。それだけ関心があることです。これも全国に誇れる回数だと思っております。

今回のご卒業を機に、同窓会に入会を切にお願いをする次第です。この後食事を取りながら、いろいろお話ができたらと思っております。学生生活の思い出や学習センターの要望などについて、お話を聞かせていただけたらと思っております。

また客員教員の先生にも参加いただいておりますので、ご遠慮なくお話をいただければと思ひます。



(来賓出口所長挨拶)

出口所長挨拶

改めまして、本日は本当におめでとうございます。先ほど、あの桑原さんの卒業生代表挨拶を聞いて改めて思いました。どなたも卒業するのにさまざまなご苦労があったんだと言うことを痛感しました。当時はその家庭のご事情で営業することができなかったことは、大変な思いをされたわけですし、そういう中で学ぶことを継続されて卒業されたことに、心より敬意を表したいと思います。

藤嶋学友会長

私は今学友会会長やっていますが、卒業されると学友会から抜けてしまうので、ぜひ、再入学していただいでですね、一緒に仲間として入会して頂ければいいかなと思ひます。楽しいのでまたよろしくお祈いします。

大谷客員教員

客員教員としてここで働くことになりました大谷です。昨年まで島根大学教育学部で生物学を担当していました。今学習センターではゼミを担当しています。来週は水中の希少生物を調べます。実際に眼やルーペ、実態顕微鏡で観察したいと考えています。皆さんもご興味がありましたら参加

ください。

私も退職した後、ちょっとぼうっとした時期がありましたけど、放送大学を通じて勉強を兼ねていけたらと思います。本日はご卒業おめでとうございます。



(未来の会員?も初めて参加)



卒業生の皆さんから

Iさん 私は四コース目の卒業となりました。住所は安来ですが、地元みたいなもんなんですが、やっぱり安来から松江までは時間がかかります。このごろは Internet でのオンラインや、会議を Zoom で開いていますので、助かっています。

しかし、この度の四コースについてはやっと卒業できました。

途中ダメだなど思うようなことがありましたけど、最後に頑張って友達も励ましてくれ、センターの事務所で今年卒業だねって言われたら、何とか頑張らなきゃと思いました。

今回は4コースなんですけど、私は最初に選科で入ったんですが、研修旅行に参加した時に全科に入らないかと言われ、頑張った結果が現在です。学生同士でお話ししたりして楽しく過ごした事を覚えておりますので、皆さんも卒業されても次のコースを頑張ってください。

Kさん この放送大学があったから元気になったかなと思って感謝しております。次回についてはどうしようか思いましたが、手続きが間に合わなかったんで、新年度からぜひ勉強したいなと思ってますので、よろしくお願いします。

Tさん 高校生の時には、大学に入ろうという気にならなかったんで、ずっとそのまま過ごしましたが、妊娠してる時に正規職員として働きたいなと思ってても、スタート時のお給料が大卒と高卒で違う事に愕然としたので、これは大変だと思い、それで入学を決めました。

子供たちにもすごく苦勞かけたなと思っています。最初は卒業すればいいと思って入学して、学んでいくうちにさらに学びたいことがいっぱい出てきて、面接授業で徳島学習センターまで受けにいき、すごく楽しかったです。これから育児と様子見ながらまた楽しみながら学びたいなと思っています。

Nさん 私は国語が小学生の頃から苦手で、そんなに面白く日本語が学べて大丈夫かなって一瞬思いましたが、ちょっと環境的に難しかったんですよ。今3人の子育てが終わって、3人とも大学を出て、ずっと家の中では私だけが学習している時があり、できれば看護の学習をと思っているうちに仕事もすごく忙しくなって、看護や介護の現場は大変で、絶対にコロナに罹患させてはいけないため、本当に大変な時期がすごく長くなるため、最善のケアが必要となります。その中やっと卒業もできました。面接授業では岡山や鳥取学習センターにも行ったりして、楽しく学ぶことができました。

Hさん 皆さんにも言えますが、私は最初放送大学で学び始めた頃は苦勞していなかったんです。理由は一学期2科目しか受講しないので、結局1回目の卒業は24年間かかりました。

今回3回目の入学をしました。前に卒業した時に面接授業で何か希望がありますか?と問われ、いつも三角縁神獣鏡(古墳時代前期に日本で広く出土した大型の青銅鏡)について企画してほしいと要望しました。その後、一年後ぐらいに面接授業として開催されました。今76歳なんですけど、最後に微分積分について学びたいと無謀なことを考えており、そのためしばらくは段取りをして、1年でそのその微分積分やろうかなと思って入学します。もっと授業は数学系があったらいいと思います。

この機会に同窓会にご参加を

石川会長から「日程は未定ですが、この年末ぐらいに、文化部の活動で“コンニャク作り”を計画しています。それから、“A I の活用について”

も企画していますが、これは卒業の方から“AIって何だろうな”ということが知りたいので、ぜひとも解かりやすくした講演会をしてくださいかということがあって、計画しようかと思っていますので、興味のある方はぜひ参加をしてください。またホームページでも案内します。

本日はご多忙の中ご参加いただきありがとうございました。

学位記授与者の声

卒業を迎えた心境

生活と福祉コース 桑原 たえ子

私は7年前に放送大学に入学しました。生活上で知らないことがたくさんあり、多くのことを勉強し知識を深めたいと思いました。

最初は4年間で卒業すると思っていましたが、7年もかかりました。当初は、一生懸命に勉強しました。そのうちコロナ禍になり、何事も大変になり仕事も休み運動不足、ストレスがたまりイライラしていました。また、膝の手術をすることになり試験を受けられなくなりました。

悪いことは、続きました。2週間の間に母と息子が亡くなり、何も手につかなくなりました。でも提出物の期限が迫り、勉強をすすめているうちに徐々にできるようになりました。

人間は弱くもあり、反省したり自分に鞭を入れたりして生きています。いつまでもくよくよしても始まらないと思い、一生懸命生きることになりました。

面接授業では、興味がある授業は、もっと聞きたいと思うことがたくさんありました。仕事、家庭での疲れがある時は、眠くなることもありました。また、他の地域の面接授業に行きますと、旅行気分も味わうことができました。もちろん、美味しいものも食べることができました。

残念なことは受けた授業の日程が重なり選択するのに悩みました。

卒業することができてホットして、自分自身少し心にゆとりができてきたような気がします。

入学して多くの人に支えられ、学習センターの人にも優しく丁寧に教えていただき温かくホットすることが多く感謝をしています。

放送大学で学んで、知識が深まり本当に良かったと思っています。私の宝です。

私にとって学びとは —放送大学で学位を取得して—

生活と福祉コース

中川 映子

私は、叔母が看護師をしていたこともあり、女性でも自立して社会で働くことを目標に、看護学校に進学しました。



看護学校では半年間の

基礎学習ののち、現場での実習を中心とした学習が始まります。全科を回り、実習記録を書き、患者さんについて、疾患について学習していきます。人の命を預かる仕事のため、卒業後、実際に勤務についてからも学ぶことは継続していく必要があります。

高度経済成長、医療の進歩、そして超高齢化社会の到来と、時代はめまぐるしく変化していきました。私も結婚、出産、子育てとライフステージが変化する中、働き方も変化しました。夜勤のない福祉施設での看護師をしながら、3人の子どもを大学まで卒業させることができました。

福祉施設では、いろいろな職種の方との連携が必須であり、看護師という専門職としての考え方以外の多さや違いに、改めて気づくこととなります。それまでの、病気を中心に見る看護から、人の一生を多角的に見る視点が必要なことに気が付きました。

介護士の方の中には、大学を卒業している人も多くあり、考え方、物事の捉え方がとても客観的、多角的なことに刺激を受けていました。そんな時に、友人が放送大学で学んでいることを知り、自分にもできるだろうかと思いはじめました。友人も子育てを終えた看護師で、同士の存在です。放送大学に入学し、学習を始めていかに知らないことが多いか、学問は様々な分野にあるのかを知りました。

同時に、学問を深めることは、社会の構成や人との関わりを知ることができます。人と人との争いの原因を分析すること、協働するために必要な知識などを学ぶことができたように思います。単純に、大学卒の資格があると無いとでは、給与面でも差がありますが、それ以上に大学で学ぶことは見識が広がり、自分に余裕ができることも分かりました。現在では看護系大学は200校以上あり、今後はほとんどの看護師が大卒の時代となる

でしょう。

私にとって学びとは、社会や人間について知り、よりよく生きるための助けになるものであると思います。

この度は、大変お世話になり、ありがとうございました。

アカデミックガウン姿で 卒業記念写真⑥



(拍手・ガウン着用の皆さん)

島根同窓会では、2022年2学期から学位記授与された会員(当日入会可)で、希望された方に同窓会からのお祝いとして、アカデミック・ガウンを着用して記念撮影し、写真盾に装丁の上贈呈することを決めて開始しています。

今回は事前にセンターから卒業生に対し、学位記開催案内に記載してあり、事前申し込みと当日ご案内の卒業を祝う会に参加された3名の方に、記念撮影を行いました。

今後とも撮影を希望される方には無料で実施します。また、過去に学位記を授与された方も希望される場合は、卒業年度を明記して撮影します。希望される方は同窓会長までご連絡下さい。

木を植えるプロジェクト 森林保全活動に参加して

松江市 北垣幸久



11月8日(土)、山陰中央新報社主催の「さんいん環境キャンペーン」事業の一環である「木を植えるプロジェクト 島根県民参加の森づくり」へ本会から6名が同窓会旗を持って参加しました。(内訳:会員



6名、友人の参加者1名とそのお孫さん1名)
(参加者全員で。前列に同窓会旗を掲げて)

この森林保全活動は、2002年より玉湯町の「花仙山」から始まり、植林の歴史を積み重ねてきました。現在の東長江共有林組合が所有する山林「葉子山(はこやま)」でのキャンペーンによる植林活動は今年で8年目となりました。

この活動は、「森林の再生はもとより森林保全の重要性を伝える重要な役割」を担っています。当日は晴天に恵まれ、協賛企業の社員や一般参加の家族連れなど、主催者発表で総勢97人が集まりました。私たちは松江森林組合の方々の指導のもと、アカマツ500本と山桜100本の苗木を植えました。



配られた鍬で深さ約30センチの穴を掘り、急な斜面と固い地面に苦戦しながらも、未来の豊かな緑を想像し、アカマツ

とヤマザクラを一本一本丁寧に植え込みました。特に印象的だったのは、小さな身体で一生懸命鍬を振るってくれた小学3年生のお孫さんの姿です。急斜面にもめげず最後まで頑張り通し、植林の大切さを肌で感じてくれたことに、深い喜びを感じました。

私たちが植えた若木が大きく育ち、将来たくさんのCO₂を吸収してくれることは、「カーボンニュートラル」実現への小さな一歩です。今回の活動を通じ、改めて自然を守り育てることの重要性を再認識しました。同窓会地域貢献活動の一環として、この貴重な経験を同窓会会員の皆さまと共に



有できたことを嬉しく思います。

(11月30日(日)山陰中央新報紙)

学長表彰「名誉学生」授与の 会員を訪ねて ⑦

2025年度第2学期卒業 松江市 北垣幸久さん



街路樹の枯葉が明るい初冬
の光の中を舞い、にわか

に寒さが増した11月18日、放送大学島根同窓会会員7人目の名誉学生の称号を授与された北垣幸久さんを、学習センター談話室にお迎えして取材をしました。



(北垣さん)

北垣さんには2022年の「たたら18号」に於いて、社会貢献活動実践者として、一度取材をさせていただいており、そうした間にも弛まらずコツコツと努力を続けられて、

今回全コース終了の名誉学生

となられました。

—この度は名誉学生の称号を授与、おめでとうございます。また本日はお忙しい中取材にご協力いただき、ありがとうございます。

北垣さんには以前にも、卒業生の声や卒業を祝う会、地域会員の近況など、何回か登場していただいておりますが、今回は名誉学生ということで、お話を伺いたく思いますのでよろしく願いいたします。

—放送大学をお知りになられたのは、どういったことでしょうか

北垣—格好のいいようなことを書いていますが、一応資料を見ながら話させてください。(そう言われながら北垣さんは6頁にわたる、今回の取材内容についての回答メモを渡された)。

41年間の務めを終え、退職が近づいた頃に放送大学の存在を知りました。私は一度現役での大学生活を経験しましたが、いきなり全科履修生として入学することには自信がありませんでしたので、平成22年(2010)、先ず、選科履修生としてスタートをしました。

—入学の動機は何だったのでしょうか

北垣—主な動機は二つあります。先ず、一つ目として、小川洋子さんが書かれた小説『博士の愛した数式』に登場する『オイラーの等式： $e^{i\pi} + 1 = 0$ 』を学園紛争の最中だった大学時代に深く理解

できなかった心残りを解消し、改めて数学を学び直したいと考えたこと、二つ目は、当時(昭和44年・1969)の学園紛争の煽りで卒業式もなく就職先へ旅だった56年前の苦い経験から「大学の卒業式に出席したい」という長年の夢を叶えることでした。昭和44年(1969)は「安田講堂事件」があった年になります。その他、「アポロ11号の月面着陸」・「松山商対三沢戦が甲子園史上初の決勝引き分け再試合」などがありました。翌年には「三島由紀夫の盾の会」事件があり激動の時代だったように思います。

—三島由紀夫が自衛隊の朝霞駐屯地の建物のベランダに出て櫓を飛ばし、割腹自殺ですね。では履修をされた科目で良かった・面白かった、反対に期待外れがありましたか

北垣—特に印象深く残っているのは、選科履修生として初めて履修をした『数学再入門(07)』の学習経験です。

第1章の冒頭に「宇宙は数学の言葉で書かれた書物である」というガリレオの言葉がありました。

—丁度その頃、小惑星探査機「はやぶさ」が「イトカワ」の微粒子を地球に持ち帰ったこと、放送大学に入学をしてオイラーの等式理解の基礎を学べることから、夢中になって学習に取り組みました。

その後、単位互換制度を利用して島根大学で「微積分」・「三角関数」などを学べたことは、数学を深く掘り下げる上で、大きな喜びとなりました。この「微積分」・「三角関数」はオイラーの等式を理解する上での基礎となるものです。だからこれだけは力を入れて勉強をしました。しかし正しく理解するまでには未だ至っていないです。

—島大では総合理工学部ですね



北垣—「微積分」については総合理工学部、「三角関数」は生物自然科学部の先生でした。その時は66歳でしたが、若い学生と一緒に学ぶことは楽し

いことでした。

—当初に思われた達成感は得られましたか

北垣—「達成感」は一応ありましたね。単位取得ということではなく「学ぶ」ということです。

入学した翌年平成23年(2011)には東日本大震災発災をキッカケに『環境と社会(09)』を受講しました。この科目は「SDGs」を先取りした「持



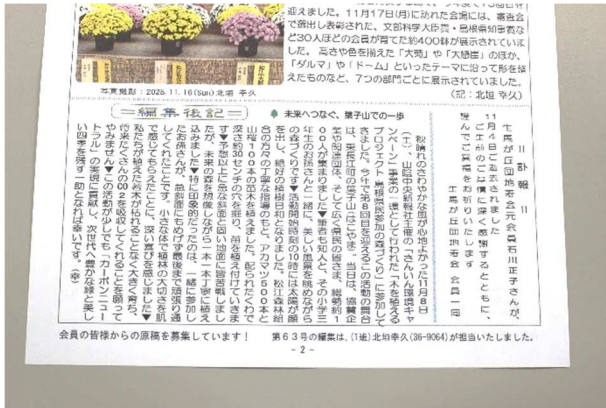
(印刷教材)

「持続可能な社会」という考えかたを紹介しており、環境市民団体「くにびきエコクラブ」



に入会するきっかけにもなりました。

私は文系ではありませんが、人間と文化コースでは『日本文学の名作を読む(17)』を受講した際、清少納言が『枕草子』で讃えた四季の美しさが温暖化の影響で『二季の国』へと大きく変わりつつある現状を知ることができ、現状を見て、環境市民団体での活動に、新たな視点を与えてくれたように思っております。



(地域で発行しているミニコミ紙)

私が YouTube にあげている video を見てください。(北垣さんはそう言われ、持参されたパソコンの動画の YouTube で私達に紹介された。そしてたら其処には北垣さん達の日ごろの環境保全活動や、環境出前劇を通しての環境汚染を訴える動画があり、現在の地球環境が如何に深刻なものであるかを、深く考えさせられるものでした)。

一北垣さんは放送大学入学の目標が、「大学卒業式への出席」だということでしたが、卒業に臨まれてのご感想をお聞かせください

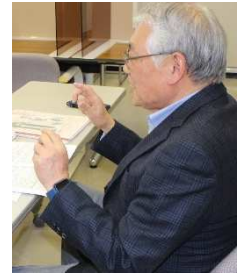
北垣一平成 27 年(2015)私にとっての最初の卒業式(NHKホール)では、多数の出席者のため、学位記の授与は代表者のみで、少し残念な気持ちが残りました。それに対し、島根学習センターで 56 年前、学園紛争の煽りで卒業の式もなく社会へ旅だった私にとって、このような形での式典に出席できたことは長年の夢が叶ったように感じました。

それから同窓会で企画されたアカデミックガウンを着用しての記念撮影をさせていただいたことは、思い出に残る貴重な体験となりました。

同窓会のご厚意に改めてお礼を申し上げます。

一学生生活全般を通して、印象に残ったことはありましたか

北垣一島根大学との単位互換制度を利用して、現役大学生に混じって 60 代後半の私が 1 年間、数学の基礎を学ぶ機会を得られたことが、何よりも得難いことでした。これによって数学への再挑戦が実現できたものと感じております。それから入学当初の、鳥取への研修旅行で、単位互換制度を利用して島根大学で学ぶ先輩履修生の存在を知ったこと、そんなことが私のその後の学びの指針となりました。



一年齢を重ねて学ぶことについての意味なりについての意味なり、またそれについて感じておられることなどのご感想をお聞かせください

北垣一年齢を重ねてからの学びは、人生を振り返り、社会や環境に対する課題を多角的に捉え直す視点を与えてくれます。体力や記憶力の衰えは感じますが学び続けること自体が生きがいとなり、常に新しい知識を得る喜びを感じています。

私はまた幕末の大学者、佐藤一斎の言葉「少にして学べば壮にして為すこと有り。壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず」という言葉を心に留めています。またこの言葉と関連して、アメリカの実業家で詩人のサムエル・ウルマンが 70 代に書いた名詩「青春」の一節に「年を重ねるだけでは人は老いない、理想を失うときはじめて老いる、頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、80 歳であろうと人は青春の中にいる」があります。

ウルマンは「理想を持ち続けることの大切さ」を語っているのに対して一斎は「学び続けることの大切さ」を説いていますが、どちらの言いたいことも同じです。「心を前向きに保ち、何かに向かって進むこと」こそが、人を老いから遠ざけるものと思います。還暦を過ぎてからの学びは、知的好奇心を満たし、地域活動への参加にも繋がっています。「年齢にとらわれず、学びや理想を持ち続ける」ということは簡単ではありませんが、これからもその気持ちを大切にしていければと願っています。

世界一美しい「オイラーの等式」

一北垣さんは以前の卒業を祝う会の席上、数学を学ぶ面白さについて話されましたが、具体

的にはどんなことでしょうか



(熱く語られる北垣さん)

北垣一科学者や数学者の多くが「世界一美しい」と称賛する「オイラーの等式」と呼ばれる数式

「 $e^{i\pi} + 1 = 0$ 」で

す。「ネイピア数 e 」「虚数単位 i 」「円周率 π 」という、本来縁もゆかりもないと思われる三つの数が、一つに繋がって“0”になってしまう不思議さに圧倒されます。

また、“1”と自分自身以外では割り切れない数字「素数」の魅力にも圧倒されます。素数の魅力は「数の原子」とも呼ばれる基本単位としての性質、無限に存在するがそれがどういう秩序で出現するか、説明できないところにあります。

そしてその性質が現代の暗号技術などに不可欠な役割を果たしています。また、素数は他の数と割り切れる関係を持たない唯一無二の存在であり、自然数(1, 2, 3・・・無限に続く正の整数)を分解する際の「基本的な構成要素」となるため、数学的な奥深さと探求心を掻き立てる魅力をもっています。

『博士の愛した数式』の作者(小川洋子)は、数学の美しさについて「実は数学において複雑な数学的現象を一行の数式でピット統制する美しさと、大自然を『五七五』という最小の言葉で表現する『俳句』とは、非常に近いものがありますね」と述べています。

一島根学習センターでは10人目の学長表彰

「名誉学生」の称号を受けられました。目標や自覚されての学習でしたか。達成まで何年を要しましたか

北垣一名誉学生の称号を目標に定めていたのではありませんでした。当初の目標を達成した後も様々な分野の学びの奥深さに惹かれ、結果として6コースすべてを履修することになりました。

いつからか1コース先の卒業式に前会長の姿があったことも刺激になっていたようにも思います。

平成22年(2010)に選科履修生として入学し、翌年全科履修生3年次編入で、都合15年で達成したことになります。

一近年の放送大学や学習センターの運営について、何か感じられることがありますか

北垣一日頃の運営に感謝しています。その上で、以下の二点について検討していただければ幸い

です。

一つは、「地域連携への期待」学習センターが地域での生涯学習の拠点として、市民活動と学校・地域社会との連携を深める役割を担うことができるよう、そのテーマに沿った「面接授業」の開催を期待したい。

二つ目は、「制度への意見」として、全コースを終え名誉学生の称号を授与されましたが、2年目のコースの卒業条件16単位の取得には、正直違和感を覚えざるを得ません。



3年次に「再入学」としての扱いで、きちんと卒業をしたとの自覚が得られたらよかったなと今感じています。

一名誉学生の処遇についてのご意見がありますか

北垣一この度の表彰、同窓会からのお声かけなど、長年の学習を丁寧に評価され感謝しています。以下についてご検討いただけたら幸いです。それは「聴講制度の運用について」で、名誉学生の特典として、面接授業を受けるにあたっては、定員に空きのある場合は、聴講生として無償で学べると聞いていましたが、今年度1学期に鳥取学習センターでの(取材中の竹下さん)聴講を申し込んだ際、「正式な受講生しか受け入れない」との返事を受けました。詳細の理由が伺えなかったことが残念でした。せめて空きの面接授業については、無償で聴講できることを強く希望します。

一読書はどんなジャンルの本を読まれますか

北垣一放送大学での学びの影響もあり、数学や環境問題に関する自然科学系の解説書を読むことが多いです。また、お気に入りの作家としては五木寛之・山崎豊子・池土井潤などを読む機会が多いように思います。

一座右の銘とかはおありですか

北垣一特にありませんが、「一隅を照らす」を心がけようと思っています。大きなことでなくても、自分のいる場所、活動している場で地域社会に貢献することを大切にしたいと思っています。

一尊敬する人物はどなたでしょうか

北垣一私は高校・大学時代の恩師、社会人時代に41年間勤め上げる助言を下さった上司。そして、社会人としての務めを終わった現在も、くにびきエコクラブ現名誉会長や仲間たち、同窓会の役員の方々など、多くの尊敬すべき人々に囲まれて活動できていることに感謝しています。

一卒業生や在学生に対する要望はありますか
北垣一放送大学で培った幅広い知識や多角的な視点を、ぜひ地域社会の問題解決に生かしていただきたい。私が活動している環境市民活動の分野でも、知識を持った若い力を必要としています。特に卒業生の皆さまには、世代や専門分野を超えて、それぞれの立場で社会に貢献して下さることを期待しています。

一島根同窓会に対する忌憚のないご意見を願います

北垣一日頃より、卒業生の交流促進や学習センターへの支援など、活発な活動に敬意を評しています。今後の課題としては、会員の高齢化が進むことが予想されますので、現役学生や新卒業生にとってより魅力的で、時代に合った活動を企画し、若い世代の参加を促すことで、同窓会の活動が長く続いていくことを願っています。

一本日は貴重な時間を割いて取材にご協力いただきありがとうございます。

取材で感じたこと

北垣さんには以前の取材の時に伺っていた、プラスチックごみによる海洋汚染ということが地球環境を脅かすほどの存在となってきており、そうしたことへの危機感から「くにびきエコクラブ環境出前劇の上演」などを通じて、広く啓発活動を行われていることだった。

こうした地道な活動を続けておられる北垣さんというのは、荒蕪な葦原を社会貢献活動によって少しずつ稲田に変えてゆくこと。更にまた日々の勤勉な努力によって稲田を良田へと変えてゆくこと(今回のグランドスラム達成)そんな姿は、二宮尊徳の語録にあったこんな言葉をおもいおこさせられるものだった。

「稲と葦とは一つのものである。だから葦のはえている所をひらけば稲田となり、稲のはえている所を荒らせば葦原となる。わが神州は上古豊葦原と言ひ、また瑞穂國と称した。だからこれをひらけば良い米を産み出す。これが万国に冠たるいわれである。けれども耕せば稲となり、耕さなければ葦となるのであるから、どうして耕作につとめずにいられようか」(『二宮先生語録』・斎藤高行原著・一円融合会刊)。

淡々と話されながらも、何事にも真摯に全力で取り組まれるという姿勢。今回の取材でもそんなお人柄の北垣さんを、改めて感じたことでした。お忙しい中を取材に応じていただいた北垣さんには、改めてお礼を申し上げます。(竹下・知野見)



(誠実に答えられる北垣さん)

地区会員の近況報告 (中部地域 2) 執筆累計者数 41人

第2の人生、 明るく元気に良い仲間作りを

出雲市 安食豊子



島根同窓会に入会後、行事などには参加しておらず、協力できていないことに申し訳ないと思っています。せめて寄稿だけでも協力をお願いしています。

私は、看護師として病院で働いておりましたが、60歳となり役職もなくなることからひと区切りと思い、昨年3月に退職しました。

振り返ってみると、看護師として38年、最後の6年間は病院で看護部長を勤めさせていただきました。組織や自分の目標を持ち、それを達成するために頑張りました。私生活では、40代で主人を病気で亡くし、一馬力で2人の子どもを育てることになりました。なんとか子どもたちは大学を卒業して、自分自身で生活ができるようになったのでほっとしています。公私ともに大変なことはありましたが、多くの貴重な経験をさせてもらったことや沢山の人の助けをもらったことは感謝してもしきれません。

退職後、旅行したり友だちに会ったり出かけることはありました。しかし、続けている趣味もない私は、仕事に行かなくなると社会との繋がりが随分少なくなったように感じました。高齢者が元気に毎日を送るための秘訣として“きょういく”(今日行く所がある)という言葉が使われますが、高齢者でなくとも大事なことと実感しました。私

は、人から誘われたことにはなるべく参加するようにしました。すると新たなご縁ができ知り合いも増えました。現在、フルタイムではありませんが、働いています。

人生 100 年時代、私の第 2 の人生はまだまだ先は長いです。健康で明るく楽しく気の合う仲間と過ごしたいと思っています。“わくわくする気持ちを大切”にして。

「卒業後の私」

出雲市 増原久子



2016年3月16日付で、放送大学の卒業証書・学位記（人間と文化専攻）をいただいてから、もう10年近くが過ぎた。これが二つ目の卒業証書であった。

私は満3歳の時、父を病気で失い、母の細腕で何とか学業を続け、島根大学の二年課程を修了して、社会人となった。

結婚後、夫の両親を看取り、3人の子育てを終えたころ、私の胸の内に次第に大きくふくらんでくる思いがあった。それはまだ学びが足りていないということだった。

そして長い年月の後、2021年放送大学の三年次編入へとたどりついた。受講中は若い方々といっしょに、文字通り老骨に鞭打って学び、一つ目の卒業証書は「生活と福祉専攻」二つ目は「人間と文化専攻」となった。

二つ目の専攻を学び終えて、卒業し大学院へ進んだが、90歳になって体も脳もついていけず、退学した。

今、私の生活の中心になっているのは、羽仁もと子創立の「全国友の会」であり、その会員として家庭生活の衣食住や家計などを学び、日々の営みを大切に暮らしていこうと思っている。結婚時に実家の母から購読を引き継いだ雑誌「婦人之友」は以来70年が過ぎた。

最近身体も頭脳も衰えてきたようだが、残された時間を大切にしたいと願って、読書に力を入れようと思う。最近読んだ小説は原田マハ著「美しき愚かなものたちのタブロー」で、これはかなりの長編だが、国立西洋美術館の創設に情熱を燃やした松方幸次郎の物語である。

こんな私の日常である。ただ今91歳となった。



大阪、奈良、神戸旅行記

出雲市 長島 博



人間と文化コース卒業後は、生活と福祉コースに再入学して、勉学に励んでいます。

昨年10月末に関西に旅行しましたので、その旅行記を書いてみます。

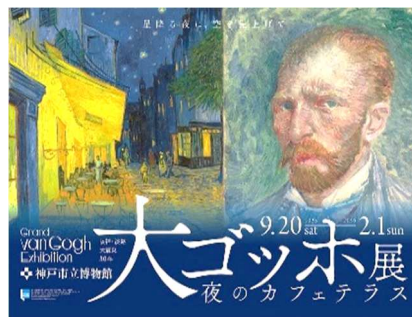
25日土曜日の朝、出雲市駅を出発して大阪に向かう。11時頃新大阪駅に到着、次に地下鉄淀屋橋線に乗り、長居駅に到着そして長居公園へ行く。ヨドコウ桜スタジアムで、2時からのサッカーJ1（ジェイワン）のセレッソ大阪対川崎フロンターレの試合を観戦、雨が少し降りましたが、試合はセレッソが最初の20分間に2点を入れて、そのままセレッソが2対0で勝ちました。香川選手が後半に出場しました。

その日は、新大阪のアパホテルで泊まり、翌26日はJR奈良駅行き、奈良国立博物館の正倉院展を見学しました。聖武天皇の双六の水晶玉は透明色、黄色、白色で綺麗でした。蘭奢待（黄熟香）は残念ながら臭いありませんでした。大仏の開眼の筆は思っていたより太く直径10cm以上ありそうでした。



瑠璃杯は青く綺麗でした。帰り道には鹿がたくさんいたので、鹿を撫でながら帰ってきました。

（蘭奢待（黄熟香））



近鉄奈良駅から近鉄に乗り、神戸三ノ宮に行って神戸市立博物館で、大ゴッホ展を鑑賞しました。

（ゴッホ展開催ポスター）ゴッホの傑作“夜のカフェテラス”は、青色の星空と黄色のカフェテラスが見事でした。土産にスプーンとエプロンを買いました。

その後、新神戸駅で新幹線に乗り、岡山駅でやくもに乗り継ぎ、出雲市駅には7時半くらいに着きました。

足立悦男先生 「秋の瑞宝中綬章」宮中で叙勲

島根学習センター元所長・島根大学名誉教授の足立悦男先生がこの秋の叙勲で、宮中にて瑞宝中綬章を受けられました。

毎月一度開催をして、先生よりご指導を受けている「表現の会」の会員の皆様から、先生への喜びの気持ちとお祝いをお伝えしたいと、以下の方々よりメッセージをいただきました。

此処にそのままをご紹介させていただきます。

表現の会代表 知野見孝信



最前列右端が足立先生（天皇陛下拝謁後の集合写真）

先生

足立悦男先生

放送大学サークル「表現の会」に毎月ご指導頂いている島根大学名誉教授足立悦男先生は先日叙勲「瑞宝中綬章」をお受けになりました。先生おめでとうございます。

皇居での式典には奥様とご一緒のことと思いますが、お元気でご出席くださいますよう祈っております。

いろいろな賞を受けることには沢山の経験をお持ちの先生ですが、陛下直々の叙勲はまた、格別かと思いますが、如何でしょうか。欠席ばかりの安部ですが、心からお祝いのペンを取りました。

お目出度うございます。今後共「表現の会」も宜しく願い申し上げます。

安部保江

足立悦男先生

この秋のよき日に、先生のおめでたい叙勲の報に接しました。誠にありがとうございます。

青空のもと皇居はさぞかしすばらしい空気に満ちあふれていることと想像いたします。奥様共々お喜びのことと存じます。

先生ご夫妻のご健康とご活躍をお祈りいたします。

表現の会 増原久子

足立悦男先生

先生には卒業研究のご指導をいただきまして以来今日まで、「だんだんサロン・表現の会」の一員として、そして皆様と共にその、お弟子の一人としてさせていただいていることに感謝と大きな幸せを感じております。

いつも穏やかな先生。偶にお褒めの言葉をいただいたりしますと、「アア今日もよかったナ」と嬉しい気持ちになり、来月はもっとよい作文を書いて先生に褒めてもらおうと頑張っております。どうぞこれからもよろしくお願ひ申し上げます。

菊かおる候。叙勲、心よりおよろこびを申しあげます。

知野見孝信

会員の要望にて講演会開催 ～AIの活用について～



(講演中の矢瀧講師)

12月13日(土)放送大学島根学習センター第2講義室において、NTT西日本島根支店 ビジネス営業部 主査、矢瀧(やたき)様を講師にお招きしAI講演会を開催しました。

島根同窓会では、今年度の活動の柱の一つとして、会員の皆様相互の交流を深める場を創出したと考えておりました。

そのような折、会員の方々から「AIに関する講演会を開催してほしい」との具体的なご要望をいただきましたので、このたび未来の社会を形作る重要なテーマであるAIについて深く学べる機会を企画しました。

当日は会員15名が参加し熱心に聴講しました。そもそも「AIって何?」という素朴な疑問から、AIの現状、そして将来の見通しまで幅広く講演をいただきとても興味深く聞くことができました。内容は初心者でもわかりやすいものにしていただいたこともあり、アンケートでも「大変満足」、「満足」が93%に上るなどとても好評でした。

中にはシリーズでやってほしいという意見も

あり、関心の高さと、満足感が感じられる講演会となりました。

以下に概要を載せています。詳細はホームページ等でお知らせします。



(講演会参加者)

～AIを使ってできること～ に参加して

松江市 伊瀬孝子

このたびの講演会では、AIの仕組みから将来の展望まで幅広く学ぶことができました。

アルゴリズムやモデル、パラメーターといった言葉はこれまで断片的に耳にしていたのですが、AIがどのような仕組みで学習し、生成という形でコンピューター自身が新しい情報を生み出しているのかを、分かりやすく説明していただいたことで理解が深まりました。

また、汎用AIについてのお話では、AIがより人間に近い思考をもつ可能性について触れられ、技術の進歩の速さと同時に、私達がどのように向き合えばよいかを考えさせられました。

後半では、オールフォトリクスネットワークや光通信、そして「もの」と「人」のデジタルツインといった最先端技術の紹介から、AIを支える通信やインフラの重要性を実感しました。

今回の講演を通じて、AIは特別な専門家だけのものではなく、私たちの日常や仕事のあり方を大きく変えていく身近なものであると実感しました。

AIを正しく理解し、今後の仕事や日常にどのように活かし

ていくかを考えていきたいと思えます。このような学びの機会をいただきありがとうございます。ありがとうございました。



スゴイゾAI！！

大田市 知野見孝信

AIによって論文の作成ができたり、写真が撮れたり作れたり、そんなことができるということ为先程は、見て教わった。

そして今、こんな話をされている。

「AIの進化によって、自動運転とそれに伴う交通システムの変化が起こり・・・」

NTT西日本島根支店の講師の方が熱心に、講演されているのを上の空で聴きながら私は、こんな不屈きなことを考えていた。

・・・所は松江市内の田舎道。さきほどから蛇行するような格好で、こちらに向かって走ってくる一台の車が見える。

ピー！（巡査さんの笛の音）「その車止まりなさい・止まりなさい」

「ああ巡査さん、この寒いのにご苦労さんです」

「免許証を見せてください」

満艦飾に飾られた車の中を覗いてみると中には、シャンデリアが吊るされて、棚には酒のボトルがズラッと並んでいる。設けられたカウンター席では老いも含めた男女が、酒宴の真っ最中。

この車は明らかに車ごと、スナックバーに改造した改造車である（キャンピングカー）。

「アンタたち、何をしているんですか」

「アア俺ヤチャ今日はネー、気の合った仲間同士での忘年会で、コゲして飲んでいるところです。がね・ウイ～」

「アンタラー飲酒運転だが」

「何を言われるんですか、キシヤクソが悪いネー。この車全部AIの自動運転だけ俺やちゃー誰んだい、ハンドルは握ったり触ったりもシチョランでネー」

（コレって飲酒運転の道交法違反になるんですか？そして検挙、現行犯逮捕されるんですか？）。

参加者からこんな質問が出た。

Q「質問なんですけど、例えば書かれた文章があるとしますと、ソレがAIで作られたものか、人の手によって直に書かれたものかは分かりますか？」

A「それはわかりません。然しAIで作成されたかモノかそうでないかを、検索するAIはありません」

AIの進化によっていろんな職業の変化淘汰が起こるそうです。そして学校の先生においてもソレは起こり、先ず失業するのは大学教授だそうです。

代わって必要とされ残るのは、幼稚園の先生や小学校の先生だそうです。

「分かりやすい話で、良かったワー」・「また聴きたいワー」多くの聴講者がそう話していた。

スゴイゾAI！

アーティフィシャル・インテリジェンス (Artificial「人工的な」 Intelligence「知能」)

2025年度 卒業論文発表会 & 市民公開講演会が開催

12月6日(土)13:30～学習センターにて、修士論文発表・市民公開講演会が開催されました。当初2月に開催予定でしたが雪害のため急遽講師の来演場ができず、再開を検討中でしたが今回に開催できました。

当日は21人の参加で同窓会から役員を含めて6人が参加しました。

学士による卒業研究はなく、修士修了者2名により修士論文発表となりました。

◎修士論文発表2題

1, 「職業音楽療法士のコンピテンシー」 ～コンピテンシー・モデル

の開発と評価による検討～

発表者：金築 朋子さん

2, 「英語授業におけるタスク性を高めた 言語活動の実践」

～高校英語教科書内の言語活動

のタスク性分析とその応用～

発表者：遠藤香菜子さん

◎市民公開講演会

テーマ 「老化期の転倒予防について」

～高齢者から幸齢者への第1歩

講師：岡田 修一氏(放送大兵庫学習センター所長/神戸大学名誉教授)

金築さんの論文は修論の要約とPowerPointにより報告された。

- ・初めに音楽療法について、その効果は音・音楽の聴覚刺激が中枢神経等に与える効果
- ・歌や楽器、体操、鑑賞などで機能活性化、生活機能向上や社会参加の促進
- ・専門的教育を受けたセラピストが必要
研究の動機は「音楽療法」という名称の多様
⇒専門性を把握し辛い状況
仕事として音楽療法が成り立つ条件とは何か?を明らかにしたい。

そのため歴史的・社会的背景について明らかにし、日本における先行研究で職業として社会的認知を求める活動が必要のため、職業音楽療法士のコンピテンシーモデルの開発・評価をしたいため、現状の調査と統計的分析から研究へ。

遠藤香菜子さんは要約のレジメ資料は用意されずPowerPointのみで報告されたことから、残念ながら報告について記憶することができなかった。

発表者は現在英語教員として、教科書内で設定されているコミュニケーション活動に以前からもどかしさを感じていた。

それは従来の英語教育では、PPPの指導法が一般的でしたが、最初から学習者が使用する文法項目が決まっており、言語形式ばかり意識があるとの批判から、近年注目されたTBLTではタスクを通して学習者が伝えたい内容や適切な文法を自分で考え、自由に言語産出が可能、より効果的な練習になる。

先行研究提案されていた工夫方法をもとに、タスク性を高めた言語活動を、実際に勤務校の授業で実践し、その教育的効果を検証したうえで、教科書内の言語活動の効果的な実施方法について考察することにした。

残念ながら資料がないため、改めて検証することができなかった。



続いて市民公開講演会は、PowerPoint(48枚)により、先行研究と合わせて講師の研究結果をもとに、以下について話された。

- ①高齢期における転倒問題とは?
- ②転倒の要因は?
- ③転倒の予防策は?

東京消防庁の救急搬送データから見る事故種別ごとの高齢者、約8割が転倒事故であり、発生場所は住宅で80歳以上は骨折となっていて、転倒が生活機能に及ぼす影響が大である。

そのためには、「**転ばぬ先の知恵**」が必要であり、そのための対策には二つがある。

- ①短期的予防策、
- ②中・長期的予防策であると力説された。

具体的でよい資料なので、必要の方は学習センターまでご連絡ください。



(市民公開講演会会場)

全国同窓会連合会行事 中四国同窓会交流会参加報告



2025年11月8日(土)～9日(日)、広島学習センター3階大講義室において、

第11回放送大学同窓会中四国地区交流会が開催されました。中四国の各同窓会と、島根からは石川会長・飯塚理事他、会員2名の合計4名が参加しました。大学本部からは仁科図書館長、連合会本部からは、須藤会長、高橋理事に参加いただき合計30名での交流会となりました。

今回は全体会議では各同窓会の報告があり島根からは情報交換シートにもとづき「会報たたら」の発行・防災部の新設・文化部のコンニャク作りを紹介しました、またユニークな活動として「農家民泊や奉仕活動をしている会員の取材報告」、「環境保全活動」などを報告しました。

続いて分科会に分かれ「A. 役員の確保について、B. 会員の確保拡大について、C. 同窓会(学友同窓会)の魅力づくりについて」の課題別にグループで討議を行い、最後に発表という形式で行われました。今年は講演会がなく、毎年の課題であった討議の時間が取れたことと思います。

各テーマとも結論的には、魅力ある同窓会をどう実現していくかということになり、他大学や年齢を横断した交流会の開催や情報発信の工夫を工夫すること、顔を合わせる機会の創出、役員の負担の軽減などの意見が出されました。初日の最後には懇親会を開催し、次期幹事の愛媛同窓会加幡会長へ広島稲垣会長からバトンが渡され、来年の再開を誓って終わりました。

二日目は、被爆80周年でもある平和記念資料館の見学と被爆体験伝承者(津田久美子様)からの講和を聞き解散となりました。(記:石川)

分科会「会員の確保と拡大」に参加

飯塚 裕子

放送大学同窓会中四国交流会が、広島学習センターにて行われました。

大学本部から仁科エミ様、連合会から須藤國夫様、高橋博様、総勢30名程で盛大に行われました。

全体会議のその後、分科会があり私は(会員の確保拡大について)の話し合いをしました。

分科会の中での話では、島根同窓会でもそうで

すが、他の同窓会でも会員の減少、また高齢化は同じようです。

他の同窓会共、魅力ある行事をしたり学友会と一緒に活動したりと色々発表がありました。

島根同窓会もこれから、文化部、防災部と一部の役員だけではなく皆が参加出来るような活動を考えて、楽しくやっていたらいいと思います。

今回、交流会に参加でき、これからの活動にかしたいと思います。



(参加者記念撮影・広島学習センターにて)

広島紀行文として

仙田 悦子

平和記念80周ということもあってか、市中は曇天にもかかわらず大勢の人達であった。世界情勢も相まって平和への関心の強さが窺える。

交流会では、各県代表者の人たちの熱い意見を出し合った。制限持ち時間以上超えもとどまらず熱弁されて、同窓会への思い入れが共感を呼んでいた。会費集めの手立て何かの良いアイデアをと切に訴えておられた。

また、会員を増やすことにも手だてが思いつかないとの意見は、各県も同じ様に訴えていた。そう言った中に、広島同窓会は違っていた。歌人9名が集まり歌集編纂に熱い活動をされていた。歌集『蛭窓』250首を編纂し交流会全員に配ってくれた。「日々の感動の美学を言葉につなぎとめる」と、おっしやる和装短歌会の熱心な代表者達の話が聞けた事は何かにつなげられるたらいいなと思いました。

会員高齢化と役員の確保に苦勞

長尾 美和子

中四国地区交流会に参加して皆さんそれぞれ各地区の代表として意欲的に参加しておられ熱気を感じました。

全体的に高齢化と若者少数、悩みは会員数の減少と役員確保の苦勞などの共通点を感じました。その中で私の心に残った諸氏をあげてみました。

①香川県のHさん、たぶん80歳は過ぎておられると思いましたが、前年まで会長を務めていた処、今年度の会長が途中で辞められ急拠自らかつて出られたとのこと、報告発表も熱弁をふるわれ自筆の書も持参されていました。

私自身深く考えず参加した事を反省させられました。

②同窓会と学友会との統合について、懇親会で隣り合せた愛媛の「にぎたつ同窓会」kさんより学友会との統合についての苦労話をお聞きしました。2週間に1回の合同会議を重ね、半年かけて規約を練り、かなり大変だったようです。前年の香川県よりノウハウを学んだという事で、想像以上に困難な事だったが、結果的には統合して正解だったそうです。

③広島学習センターの蛍窓短歌会よりCさん始め9名の会員による252首が掲載されている歌集を参加者全員に贈呈されました。日常の何気ない出来事を五、七、五、七、七、の文字に込められた心情が溢れていました。感動を頂きました。

④徳島同窓会のKさん、参加者の中で最年少たぶん40代後半？懇親会で今後も頑張ると力強く決意表明されました。放送大学の未来も心強くと感じました。

以上により日頃の怠慢を反省しました。

学生研修旅行 ベンガラの里に参加

大田市 知野見孝信

標高
550メ
ートル
の吉備
高原
に、「放
送大学
島根学



習センター学生研修旅行御一行様」を乗せたササノオ号のバスから、出口所長が語られるミステリーの話が、(吹屋の町がかって、「八墓村」のロケ地となったことから)、そして平野事務長からは、「2025年度・学生研修旅行のしおり」として作成された見応えのある資料をもとに、興味ある解説の話が聞こえてくる。

バスは先ず、毛利・尼子の戦国時代から争奪が続いた吉岡(吹屋)銅山の「笹畝坑道」跡に着き、ここで全員がヘルメット着用の姿となり、坑道の中へと入って行く。シャモジの様な形をした手灯り一つを頼りに地底の深く、工夫たちが蠡くように働いていた広がる暗闇の世界を見た。

暗闇のなか鉱夫たちが、ユラユラと揺れる灯りを頼りに働いたその同じ場所に、幾時代を経た私たち見学者の、黄色のヘルメットの列がユラユラと揺れるのが続いていた。(梯子の登り下りがきつかったワ
ー足が暫く笑ッチョツタよー。)



嘗て私は
定年退職時

に四国遍路で、

(採掘の坑道跡)

「満願成就・巡礼しめくくりの地」である、標高800メートルの山上に広がる宗教都市、「聖地高野山」へ行った。その「聖地高野山」と同じような山々に囲まれた山上の地に忽然と、鮮やか赤銅色に映えるベンガラの街並みが、広がっていた。

江戸時代から明治時代にかけてベンガラと銅生産で栄えた此処はまた、SOMAとして知られ、世界の銀産出量のほぼ3分の1を占めていた私の暮らす街、大田市の石見銀山と似ていた。



吹屋のベンガラは出雲街道を経て石見銀山のSOMA 銀は銀山街道を経てそれぞれ日本各地へ、世界各地へと運ばれて、人々の暮らしと繁栄とに関わっていた。

また此処ベンガラの里吹屋には、何処の屋根にも赤い石州瓦(大田市近辺で生産された赤瓦)が載せられていて、ベンガラ格子の色とソレとが調和して印象的な街並みとなっていた。

牛馬の背に乗せられたSOMA 銀は、ゆらり揺られて銀山街道を通り、そしてまた同じように、牛馬の背に乗せられたベンガラはゆらり揺られて出雲街道を通って、それぞれが世界へとまた日本各地へと運ばれていったのである。赤い石州瓦の屋根に赤いベンガラ格子窓が続き、一筋に伸びて続く街並みを、そんな往時のことなどを想像しながら楽しく歩いた。(本日の歩数6,000歩強也)。

私の住み暮らす町の石見銀山は、「世界遺産石見銀山」として平成19年(2007)世界遺産に認定をされた。そして此処吹屋の町は令和2年(2020)に、『「ジャパンレッド」発祥の地一弁柄と銅の町・備中吹屋』として「日本遺産」として認定を受けた。

然し時代の流れは速くて、効率的・合理的・経済的な世の流れに乗れなかったどちらも、石見銀

山は昭和18年(1943)にその役目を終えた。

また此処は昭和49年(1974)には、弁柄の生産も終わり命脈が尽きたのである。

かたはらに秋草の花かたるらくほろびし
ものはなつかしきかな 牧水

行き交う観光客のかたはらの空き地に、コスモスの花が晩秋の風に揺れていた。

企画実行いただきました学習センターの皆様方にはお世話になりました。楽しく本当に有意義な研修旅行でした。来年が楽しみだな・・

だんだんサロン「表現の会」 発表作品③

「老い」を生きるには

古川 貞美



両親の三回忌も30数人で賑やかに執り行うことができた。

父の「よう来てこしたなあ」という笑顔が、母の「まあまあ沢山に・・・」とにこやかに笑っている顔が思い起こされた。

賑やかな法事も終わり、片付けを手伝う娘も帰り、がらんとした仏間に一人。

帰り際に娘が「お母さんたちの時はどこまで呼ぶの?」「そうだねえ」としか言いようがなかったが、我が家では老いの一番トップになったのだ。

ふり返ってみれば、結婚して2人でスタート。子どもが生まれ4人に。実家にUターンして娘が生まれて8人。祖母が亡くなり子供が巣立ち4人に。

最後まで家族で暮らした父と母。物忘れはしても穏やかに老いを生き切ったと思う。寝たきりにならないで。

母は入院していたが、亡くなる前日会いに行った妹と私に、苦しい息の中で「気を付けてお帰り」と言ってくれた。

年末入院した父は「今度はいつ来てくれるだ」「年末は無理ですね」と看護師さん。

父が余りにも悲しそうな顔をするので、無理なお願いをして年末の30日の面会を約束したのに、29日に旅立ってしまった。母が92歳。父

が96歳で穏やかに仲良く・・・。2人の位牌の前で娘の言葉が浮かんできた。

これまで他人事とっていた「老い」が、わが身に降りかかってきたのだ。

両親の歳まで20年、老いと向き合い2人どうやって生きるのか? たった2人で!!

今まで家族で賑やかに喧嘩もしながら、ワイワイと暮らしてきた後期高齢者が2人で!

この前受けた運転免許の後期高齢者講習、短期記憶問題ができなかった。免許証が無ければ不便な田舎。思えば次々不安材料が浮かんでくる。物忘れにやる気の減退、体が思うように動かない。ここ、あそこ痛いところだらけ・・。昨年と同じようにしたのにこの疲れ様、これが「老い」なのか?

まずは疲れを癒してから考えよう。

元気になれば楽しい「老い」も見えてくるだろうから・・・。

~同窓会からのお知らせ~



新会員のご紹介

(2025年7月~2025年12)

2025年(令和7)度第1学期卒業

- ◎生活と福祉コース 桑原たえ子さん(松江市)
- ◎生活と福祉コース 中川 映子さん(米子市)
- ◎社会と産業コース 堀江 寿彦さん(雲南市)

学習センターからのお知らせ



島根学習センターは
令和8年(2026年)4月
から週2日閉所します。

放送大学では、このたび「原則として、すべての学習センターで閉所日2日制を実施する」との方針を定め、各学習センターが令和7(2025)年4月以降、順次「週2日閉所」の導入を進めています。

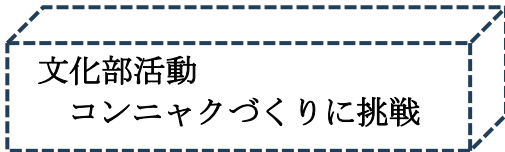
島根学習センターでは、令和8(2026)年4月から閉所日2日制に移行し、現在の月曜日に加え、原則火曜日についても閉所日とさせていただきます。(ただし、島根学習センターの入居施設の閉館日である毎月第2水曜日は閉所とし、その前

日の火曜日は開所といたします。)

そのほか、祝日の関係で火曜日を開所とする場合があります。

また、年末年始、ゴールデンウィーク、お盆期間等には、月・火曜日以外でも臨時閉所する場合があります。翌年度のスケジュールが確定次第、Webサイトや窓口での掲示等でお知らせいたしますのでご確認ください。

何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2025年12月18日(木)10:00~15:00、文化部が企画したコンニャク作りを松江市の白湯公民館で開催しました。初めての取り組みでしたが、今回は9名の参加がありました。

コンニャク作りは初めての人が多い中、経験のある会員の方の指導を受けながらみんなワイワイと頑張りました。やはり練りの工程が一番大変でした。硬さ具合がわからないので練り時間の加減が難しかったです。でもなんとか形にできたと思います。お昼もここでいただき楽しく過ごすことができました。お世話いただいた方に感謝です。



①



③



②



④



⑤ 分担して作業中

◆同窓会の活動日誌◆

(2025年7月~2025年12月)

【7月度】

- 5日(土) 64回役員会
新年度学習センターと懇談会
- 9日(水) “たたら” 発送準備作業
- 12日(土) 41回広報部会
- 20日(日) “たたら” 25号発送
- 23日(水) 29回古文書を読む会

【8月度】

- 20日(水) 30回古文書を読む会
- 26日(火) 4回文化部会
- 30日(土) 65回役員会

【9月度】

- 8日(月) 41回広報部会
- 16日(火) 1回防災部会
- 17日(水) 31回古文書を読む会
- 27日(土) 卒業を祝う会会場設営
- 28日(日) 1学期学位記授与式
卒業を祝う会
アカデミックガウン撮影会

【10月度】

- 13日(月) 66回役員会
- 15日(水) 32回古文書を読む会
- 18日(土) 防災部会講師打ち合わせ
- 20日(月) アカデミックガウン写真発送

【11月度】

- 8日(土) 2025 植林ボランティア参加
- 8日(土) 11回同窓会中四国交流会参加
- 9日(日) 11回同窓会中四国交流会参加
- 17日(月) 42回広報部会
- 18日(火) 7回名誉学生取材(広報部)
- 26日(水) 33回古文書を読む会
- 29日(土) 連合会助成金申請審査 Zoom

【12月度】

- 6日(土) 卒業研究発表・市民公開講座
- 6日(土) 67回役員会
- 13日(土) 第1回AI活用入門講座
- 17日(水) 34回古文書を読む会
- 18日(木) コンニャクづくり(文化部)
- 22日(月) 43回広報部会(校正作業)

会報“たたら”読者アンケートにご協力ください。

たたらをお読みいただきありがとうございます。より充実した紙面づくりのため、同封のハガキにて、ご意見をお願いします。ご返事は1月末日までをお願いします。

同窓会 当面の行事案内

第1回 防災部講演会開催のご案内

日時 2026年2月7日(土) 13:30～15:00まで
 会場 放送大学島根学習センター 3階「第1講義室」
 演題 「災害から身を守る」～一番身近な防災拠点を考える～
 ー我が家の健康診断ー (自宅は最も身近な憩いの居場所)
 講師 畑 琢也さん (有限会社 大廣建設設計課長)
 申込 島根学習センター (電話 0852-28-5500) 締め切り 1月31日(土)

2025年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2026年3月29日(日) 10:40～11:40まで
 会場 放送大学島根学習センター 3階「第1講義室」
 申込 島根学習センター (電話 0852-28-5500)

2025年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2026年3月29日(日) 11:40～13:00まで
 会場 放送大学島根学習センター 4階「第2講義室」
 申込 島根学習センター (電話 0852-28-5500) 締め切り 1月31日(土)

第14回 通常総会開催のご案内

日時 2026年5月9日(土) 13:30～15:00まで
 会場 放送大学島根学習センター 4階「第2講義室」
 第1部 通常総会記念第19回市民公開講演会
 講師 宮澤文雄氏 (島根大学法文学部准教授)
 演題 『西田仙太郎の実像』から西田家関係資料からひもとく～
 参加料 無料
 第2部 第14回通常総会
 申込 島根学習センター (電話 0852-28-5500) 締め切り 1月31日(土)

～編集後記～

島根同窓会のHP閲覧者数がこのところ、急激に伸びているという嬉しい報告をいただいております。

石川会長の報告によると、今年の7月あたりから伸び始めて6月699件、7月1329件、8月1328件、9月4065件、10月1307件、11月2013件の数値となっています。

石川会長はじめ役員一同HPの充実、それに会報誌「たたら」の充実を図ってはいますが、こうした数値の伸びというのがどういった理由によるものであるのか、いろいろと考えてみましたが、未だソレが分かっておりません。

そこでその訳を知る一環として、また会員皆様方のHP・会報誌「たたら」への率直な意見なりを伺いたく、今回同窓会員の皆様にアンケートを取らせてもらうことといたしました。

皆さま方にはお忙しいところではありますが、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

(ドンチャン)